

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岡崎商業施設計画(立体駐車場棟)	階数	地上4F/地下0F
建設地	西三河都市計画事業岡崎本宿山中土地区画整理事業6街区1画地	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	— 人
気候区分	6地域	年間使用時間	— 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年4月1日
敷地面積	8,136 m ²	作成者	番陸宏
建築面積	3,824 m ²	確認日	2024年4月1日
延床面積	14,828 m ²	確認者	番陸宏



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
 ②建築物の取組み: #DIV/0!
 ③上記+②以外の: #DIV/0!
 ④上記+: #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 重点項目	
①地球温暖化への配慮 <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	③敷地内の緑化 <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">26.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
②資源の有効活用 <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	④地域材の活用 <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)岡崎商業施設設計画(立体駐車場棟)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	3.0	-
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能								3.0	
2 界壁遮音性能								3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0			3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0			3.0	
1.3 吸音								3.0	
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温				3.0	-	-	-	3.0	
2 外皮性能				3.0	-	-	-	3.0	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	3.0	
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	3.0	
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	3.0	
3 光・視環境									
3.1 屋光利用									
1 屋光率				3.0	-	-	-	3.0	
2 方位別開口								3.0	
3 屋光利用設備				3.0	-	-	-	3.0	
3.2 グレア対策									
1 屋光制御				5.0	-	-	-	3.0	
3.3 照度				3.0	-	-	-	3.0	
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	3.0	
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	3.0	
4.2 換気									
1 換気量				3.0	-	-	-	3.0	
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	3.0	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	3.0	
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-	3.0	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	3.0	
Q2 サービス性能						0.43			3.0
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	3.0	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	3.0	
3 バリアフリー計画	独自			3.0	-	-	-	3.0	
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	3.0	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	3.0	
3 内装計画				3.0	-	-	-	3.0	
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	3.0	
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	3.2	0.52			3.2
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48			
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.5	0.33			
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②				3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					5.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔					4.0	0.23			
2.4 信頼性				0.1	3.2	0.19			
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.25			
2 給排水・衛生設備				3.0	-	-			
3 電気設備	②			3.0	3.0	0.25			
4 機械・配管支持方法				3.0	4.0	0.25			
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.25			

3 対応性・更新性			0.4	2.8	0.48	-	-	-	2.8
3.1 空間のゆとり			0.3	2.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				1.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57		-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			独自③	3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.0
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=	3.0	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-		-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-		-	-	-
4 効率的運用				1.0	3.0	1.00	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				-	3.0	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	2.8
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-		-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.8	0.63	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.21	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	4.0	0.25	-	-
									内装材と設備が錯綜せず容易にそれぞれを取り外すことができる。
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	1.00	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-	-
3 冷媒				3.0	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	#DIV/0!	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	3.5	0.50	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自		3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			独自		3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自		5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				0.5	3.2	0.50	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			独自		3.0	1.00	-	-	-
2 振動			独自		-	-	-	-	-
3 悪臭					-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制					1.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					5.0	0.70	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-
									照明デザイナーと共に検討を実施している。

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)岡崎商業施設設計画(立体駐車場棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:26.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)岡崎商業施設設計画(立体駐車場棟)

計画上の配慮事項	
総合	大店立地法に基づいた十分な駐車スペースを確保し、周辺道路の渋滞緩和に寄与している。フラット形式であるため、幼児・高齢者の歩行、車椅子やショッピングカートの利用も安全に行うことができ、大幅な用途・設備の変更にも容易に対応できる。
Q1 室内環境	該当なし。
Q2 サービス性能	壁長さ比率<0.1であり、大幅な用途・設備の変更が容易である。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数26.9%。周囲の緑量を確保している。
LR1 エネルギー	LED照明設備を採用している。
LR2 資源・マテリアル	内装材と設備が錯綜せず、解体・改修・更新の際に柔軟な対応が可能である。
LR3 敷地外環境	十分な駐車スペースを確保し、周辺道路の渋滞緩和に寄与している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。